

朝日遺跡の資料

本特別企画展では、唐古・鍵遺跡、池上曾根遺跡の資料を中心に、弥生時代の巨大集落を紹介してきました。本頁では、関連する基本展示室の朝日遺跡の資料を掲載します。ぜひ特別企画展と合わせご覧ください。



15-1 ◎弥生中期の土器ほか 朝日遺跡 (弥生中期/本館蔵)
集落最盛期の頃の土器。朝日遺跡集落の特産品ともいえる円窓付土器。



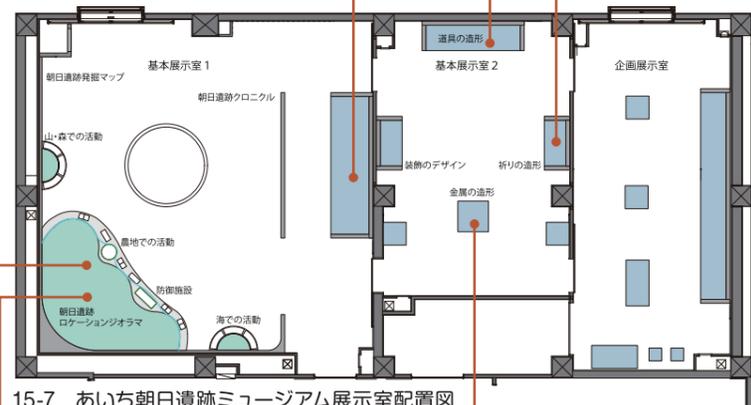
15-2 ◎サヌカイト製石剣 朝日遺跡 (弥生中期/本館蔵)
近畿地方から搬入された交易品か。



15-3 ◎鳥形木製品 朝日遺跡 (弥生中期/本館蔵)
板で作られたもの、立体的な造形のものがあります。



15-4 ロケーションジオラマ・市の風景
多くの人とものが行き交う市の様子を復元しています。



15-7 あいち朝日遺跡ミュージアム展示室配置図



15-5 ロケーションジオラマ
集落の最盛期である弥生時代中期の集落と人々の生活の様子を復元しています。



15-6 ◎銅鐸・金属製品 朝日遺跡 (弥生/本館蔵)
多彩な青銅器が出土しており、集落で鋳造が行われていた可能性があります。

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL : 052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

特別企画展「弥生の巨大集落」

編集・発行
あいち朝日遺跡ミュージアム
2021(令和3)年10月23日



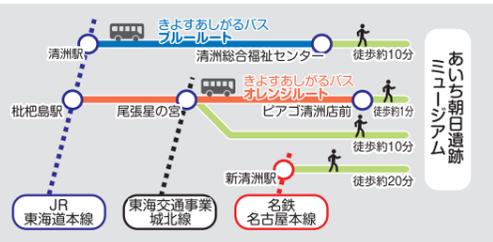
AICHI ASAHI SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム



公共交通機関



クルマ



名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

15-1~7: 本館

特別企画展

弥生の巨大集落

巨大集落出現の背景を紐解く

からこ・かぎいせき(奈良県)
唐古・鍵遺跡

いけがみそねいせき(大阪府)
池上曾根遺跡

あさひいせき(愛知県)
朝日遺跡

AICHI ASAHI SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム

はじめに

朝日遺跡は、推定面積80万㎡に及ぶ、全国でも有数の規模を誇る弥生時代の集落遺跡です。このような巨大集落は、弥生時代中期に日本列島の各地に現れ、地域の中核的な集落として発展しました。

本展覧会では、奈良県の唐古・鍵遺跡、大阪府の池上曾根遺跡という近畿地方を代表する巨大集落を取り上げ、集落の成り立ち、そこで行われた生産活動や交流について紹介します。基本展示室の朝日遺跡の情報と比較することで、弥生時代の巨大集落の実態を明らかにし、どのようにして巨大集落が出現したのか、その背景を紐解いていきます。

目次

- 近畿の巨大集落 2
- 巨大集落の大きさ比較 3
- ものづくり(石器) 5
- ものづくり(青銅器) 7
- 交易・交流 9
- マツリ(の)場 11
- 行ってみよう、史跡と博物館 13
- 朝日遺跡の資料 15



1-1 流水文が描かれた壺 唐古・鍵遺跡
(弥生中期中葉/田原本町教育委員会蔵)

凡例

- ・本書は2021年10月23日から12月19日まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する特別企画展「弥生の巨大集落」の展示パンフレットである。
- ・本書の構成と実際の展示構成とは異なる部分がある。
- ・本書の時期区分は、弥生時代前期(BC.8~BC.4c)、中期(BC.4~BC.1c)、後期(AD.1~2c)、終末期(AD.2~3c)とするが、各地域の並行関係は厳密なものではない。
- ・掲載資料のうち重要文化財には「◎」、地方自治体指定文化財には「○」を付している。
- ・本書の執筆・編集は、原田幹が行った。
- ・本展覧会の開催にあたり、下記の機関・個人から協力を得た。
和泉市いずみの国歴史館、泉大津市教育委員会、和泉市教育委員会、大阪府教育庁、大阪府立弥生文化博物館、唐古・鍵考古学ミュージアム、佐賀県教育委員会、田原本町教育委員会、田原本町埋蔵文化財センター
秋山浩三、奥野美和、柴田将幹、渋谷格、竹原伸次、千葉太朗、塚本浩司、西岡成見、瀬田佳男、藤田三郎、三好英樹、渡瀬加奈子

参考文献

- 秋山浩三 2006『シリーズ「遺跡を学ぶ」23 弥生実年代と都市論のゆくえ池上曾根遺跡』新泉社
- 大阪府立弥生文化博物館 2006『平成18年度秋季特別展弥生人躍動すー池上曾根と吉野ヶ里ー』
- 大阪府立弥生文化博物館 2021『令和3年度春夏季企画展繁栄の池上曾根遺跡ー拠点集落としての姿ー』
- 唐古・鍵考古学ミュージアム 2004『唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録』
- 中尾智行 2018『弥生時代の計量技術』『考古学研究』65-2
- 藤田三郎 2019『シリーズ「遺跡を学ぶ」135 大和王権誕生の礎となったムラ唐古・鍵遺跡』新泉社

近畿の巨大集落



2-1 弥生時代中期の土器 唐古・鍵遺跡
(弥生中期/田原本町教育委員会蔵)

唐古・鍵遺跡

唐古・鍵遺跡は、奈良県田原本町大字唐古から鍵にかけて所在する弥生時代の環濠集落です。奈良盆地のほぼ中央に位置し、標高48~51メートルの沖積地に立地しています。1936・7年に国道敷設用採土に伴い唐古池底の調査が行われ、このとき出土した土器や木製品等により、近畿地方の土器編年の枠組みを作るとともに、弥生時代が農耕社会であると明らかになりました。

集落は、多条環濠をめぐらせ、大型建物、竪穴住居、木器貯蔵穴、井戸、区画溝などの遺構で構成されています。大環濠(内濠)は直径400~530メートルの範囲を囲み、外濠を含めた全体の面積は、約42万㎡に及びます。土器、木製品、石器、骨角器の他、種子、獣骨類など多種多様な遺物が出土しています。さらに、銅鐸の鋳型をはじめ青銅器鋳造関係遺物、褐鉄鉞容器に入ったヒスイ製勾玉、楼閣が描かれた絵画土器など特殊な遺物も出土しています。

遺跡の約10万㎡は国の史跡に、出土品は重要文化財に指定されています。

池上曾根遺跡

池上曾根遺跡は、大阪府和泉市池上町を中心に泉大津市曾根町などを含む南北1.5km、東西0.6kmの範囲に広がる弥生時代の環濠集落です。遺跡は大阪湾に面した標高8~13mの低位段丘もしくは扇状地に立地し、現在の海岸線までの距離は約2kmほどです。

集落は弥生時代前期から後期までほぼ全期間をとおして営まれましたが、もっとも発展したのは中期後半です。中期前半に掘削された環濠の外側にさらに新しい環濠を掘り、集落の規模は南北450m、東西320m以上の規模がありました。この時期、集落の中心には、20m×7mにも及ぶ巨大な掘立柱建物が建てられました。出土遺物には、土器、石器、木製品の他、青銅器の鋳造に関する特殊な遺物、獣骨や魚骨などが出土しています。

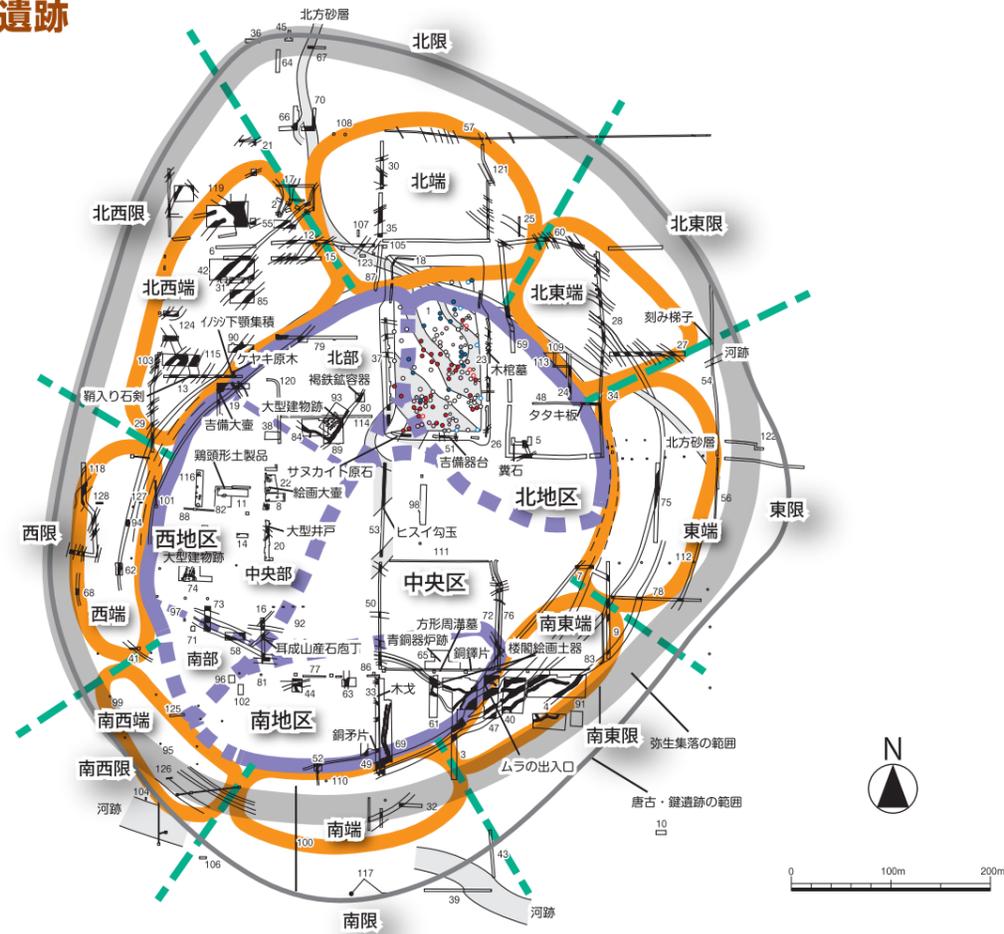
約11万5千㎡の範囲が国の史跡に指定されています。また、出土品のうち木製品は大阪府の有形文化財に指定されています。



2-2 弥生時代中期の土器 池上曾根遺跡
(弥生中期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵)

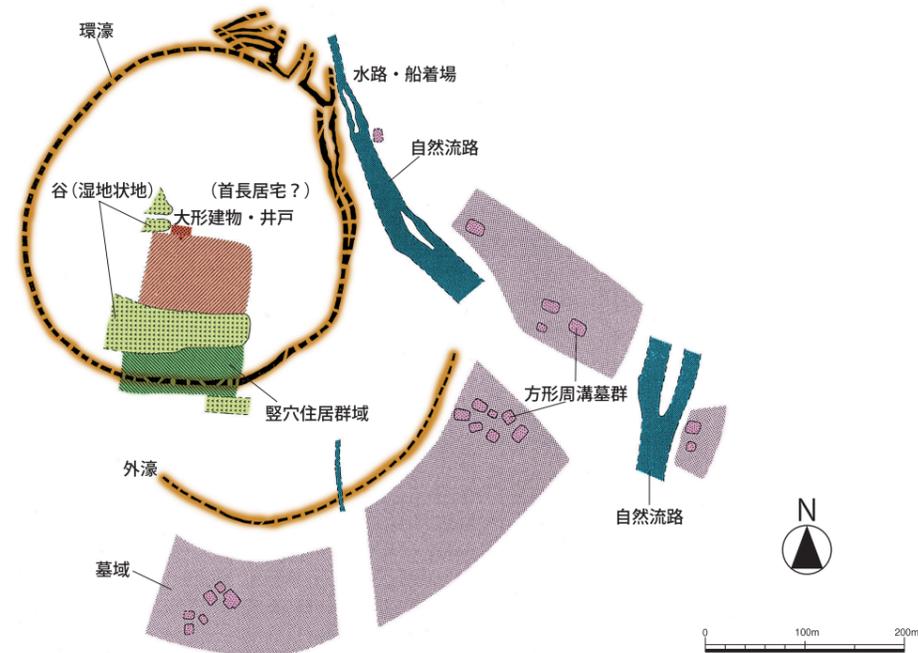
弥生巨大集落の大きさ比較

唐古・鍵遺跡



3-1 唐古・鍵遺跡全体図

池上曾根遺跡



3-2 池上曾根遺跡全体図

弥生集落の規模を測るのには、いくつかの物差しがあります。もっとも分かりやすいのは、集落の広がり(大きさ)あるいは面積でしょう。ここでは、本展覧会で取り上げる唐古・鍵遺跡、池上曾根遺跡、そして朝日遺跡の平面図を同じ縮尺で掲載しました。いずれも全国有数の規模をもつ大集落です。

他にも、集落がどの程度の期間継続したのか、住居等の遺構の数や密度、出土する遺物量なども集落の規模を知る目安となりますが、定量的な比較は簡単ではありません。

朝日遺跡



4-1 朝日遺跡全体図

3-1: 藤田2019、 3-2: 秋山2006、 4-1: 本館

ものづくり(石器)

巨大弥生集落の発掘調査では、膨大な量の土器、石器などが出土しています。これらのなかには、しばしば製作途中の未成品やその残材などがみられます。とくに石器は、原石から製品までの製作工程を追うことができ、石材の入手から、集落内での生産活動の様子まで細かく復元することができます。

巨大集落では、石器製作をはじめ、土器、木製品など、さまざまなものづくりの場として、活発な生産活動が行われていました。

唐古・鍵遺跡



5-1 石庖丁とその未成品 唐古・鍵遺跡(弥生/田原本町教育委員会蔵)
左:結晶片岩製の石庖丁とその未成品、右:流紋岩製の石庖丁とその未成品



5-2 サヌカイト製の石器と石核 唐古・鍵遺跡
(弥生/田原本町教育委員会蔵)
左上:石剣、左下:石鏃、右:石核

奈良県と大阪府の境にある二上山で産出するサヌカイト。原石や石核も出土しています。一部香川県金山のサヌカイトも用いられていました。



5-3 ◎サヌカイトの石剣と木製鞘 唐古・鍵遺跡
(弥生/田原本町教育委員会蔵)
木製の鞘に収められた状態で出土しました。刃と柄の間に樹皮が巻かれています。

池上曾根遺跡



6-1 石庖丁の製作過程と石器製作の道具 池上曾根遺跡(弥生中期~後期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵)
石庖丁は和歌山県紀ノ川で産出する片岩を素材として作られた。写真は、製作途中のものと敲打具、砥石、石錐など。



6-2 磨製石庖丁 池上曾根遺跡
(弥生中期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵)
石庖丁はイネなどの穀物の穂を摘み取る収穫具です。孔をあけ、紐を通して使われました。



6-3 サヌカイト製の石器 池上曾根遺跡
(弥生中期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵)
左:石鏃、右:石剣
奈良県と大阪府の境にある二上山で産出するサヌカイトが用いられていました。

ものづくり(青銅器)



7-1 銅鐸の鑄造風景

青銅器を鑄造する技術は、弥生時代の最先端技術でした。弥生時代には、銅鐸をはじめ、銅矛、銅劍、銅戈、銅鏃、巴形銅器など、さまざまな青銅器が作られました。どの集落でもこの技術をもっていたわけではありません。

唐古・鍵遺跡では、青銅器の鑄造が行われた炉の跡が見つかっており、銅鐸や武器の鑄型、鑄型の外枠、炉に空気を送り込む送風管、溶けた銅を受け鑄型に流し込む取瓶などの鑄造関係の道具、鑄造時に生じた鑄張りが出土しています。池上曾根遺跡でも、鑄型、送風管、高熱で変形した土器など、青銅器の鑄造が行われていたことを示唆する遺物が出土しています。

巨大集落は、優れた技術をもつ工房や工人を有する最先端の技術センターとしての役割をもっていたのでしよう。

唐古・鍵遺跡



7-2 送風管 唐古・鍵遺跡
(弥生/田原本町教育委員会蔵)



7-3 鑄張り 唐古・鍵遺跡
(弥生/田原本町教育委員会蔵)



7-4 ◎青銅器鑄造関連遺物 唐古・鍵遺跡(弥生/田原本町教育委員会蔵/重要文化財)
唐古・鍵遺跡では、炉跡とみられる遺構が検出されています。周辺で出土した遺物には、石製鑄型、土製鑄型外枠、送風管、取瓶または坩堝とされる高環形土製品などがあります。

池上曾根遺跡



8-1 石製鑄型 池上曾根遺跡(弥生中期/和泉市教育委員会蔵)



8-3 送風管 池上曾根遺跡
(弥生中期~後期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵)



8-2 土製鑄型 池上曾根遺跡(弥生中期/和泉市教育委員会蔵)



8-4 高温を受けて変形した土器 池上曾根遺跡
(弥生中期/和泉市教育委員会蔵)
溶かした青銅を受ける取瓶の可能性がります。

交易・交流

唐古・鍵遺跡



9-1 各地から唐古・鍵遺跡に運ばれてきた土器



9-2 円窓付土器 唐古・鍵遺跡 (弥生/田原本町教育委員会蔵)



9-3 伊勢湾地域の特徴をもつ土器 唐古・鍵遺跡 (弥生中期/田原本町教育委員会蔵)

弥生の宝石箱

かつての「かっつこう」
褐鉄鉱は、精良な粘土を核として砂礫が鉄分によって殻を作った自然の鉱物です。この褐鉄鉱を容器とし、そのなかにヒスイ製の勾玉2点が納められていました。細かく割れた土器片は容器の蓋として使われていたものです。

ところで、褐鉄鉱内部に存在したであろう粘土は、同時代の中国において神仙思想(道教)の仙薬の一つでした。唐古・鍵の人々が、このような中国の思想について知識をもっていた可能性も考えられています。



9-4 ◎褐鉄鉱容器に納められていたヒスイ製勾玉 唐古・鍵遺跡 (弥生中期/田原本町教育委員会蔵)

池上曾根遺跡

巨大集落は地域の拠点的な集落であると同時に、より遠方との交易や交流の拠点としても機能していたようです。遠隔地から運ばれた(あるいはその形を模倣した)土器が多く出土することは、広域にわたる人々の交流があったことをうかがわせます。また、石器の材料となる石材は、遺跡周辺では採取できないものが含まれ、ものづくりを介した活発な交流を読み取ることができます。

さらにヒスイや金属などの特殊な製品は、より遠方へと運ばれていました。弥生時代の人々の交流が、列島規模、場合によっては海外も含む広域なものであったことがわかります。



10-2 弥生時代最大級のヒスイ製勾玉 池上曾根遺跡 (弥生中期/大阪府教育委員会蔵)

長さ6.3cm、重さ120g、新潟県の糸魚川流域で産出するヒスイで作られたものです。



10-1 石材からみた池上曾根遺跡の交流
石器や石製のアクセサリの製作に用いられた石材は、日本列島の広い範囲から運ばれました。

弥生のはかり

比較的最近になって、西日本を中心として計量用のおもり「権」とみられる石製分銅の発見が相次いでいます。

また、これまで装飾品と考えられてきた一部の土製品にもその可能性が指摘されています。正確な計量を行うことは、公正な取引だけでなく、科学技術の進歩にも不可欠なことです。弥生時代の人々が、大陸の度量衡の制度を理解し、交易などに利用していたことも考えられています。



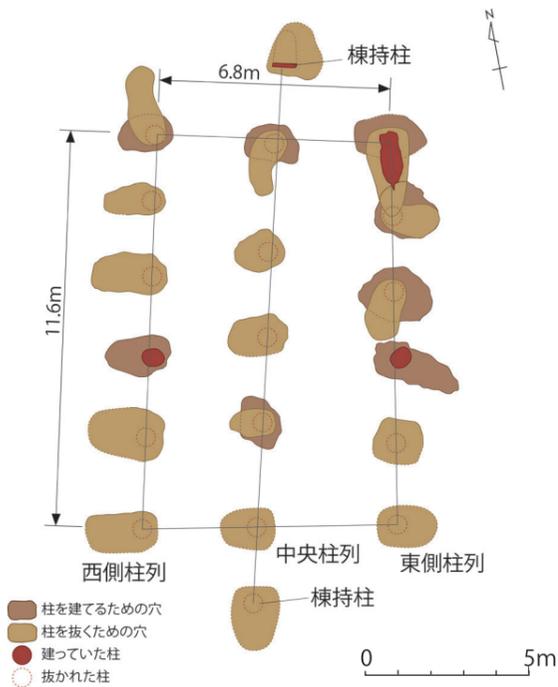
10-3 分銅(左)と磨製石斧(右) 池上曾根遺跡 (弥生中期/和泉市教育委員会蔵)
磨かれた円筒形の石製品で、重さを量る分銅だと考えられています。

マツリ

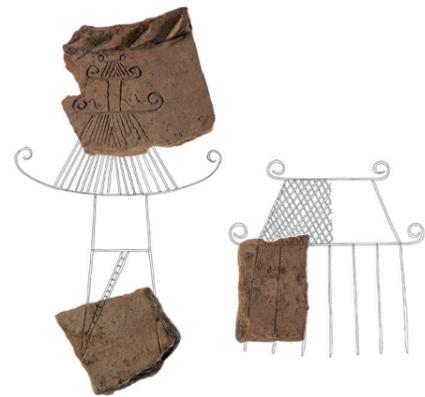
唐古・鍵遺跡

近年弥生時代の集落遺跡から、大型の掘立柱建物の検出事例が増加しています。唐古・鍵遺跡と池上曽根遺跡は、これらの大型建物発見の先駆けとなった遺跡でもあります。

大型建物の性格としては、神殿、首長の居館等様々な説があります。大型建物の周辺には広場をとまっていたり、特殊な遺構、遺物がみつかったりすることから、日常的な生活の場とは異なるマツリの場としての役割があったと考えられています。



11-1 大型建物跡の平面図 唐古・鍵遺跡
弥生時代中期初頭の建物。長辺11.6m・短辺6.8mで、両サイドに棟を支える柱が設置されていました。首長の館、神殿、集会所、倉庫などの説があります。



11-3 楼閣と大型建物が描かれた土器 唐古・鍵遺跡 (弥生中期後葉/田原本町教育委員会蔵/重要文化財)
壺の体部に描かれた高層の建築物。弥生時代に楼閣があったとして、新聞等で大々的にとりあげられました。

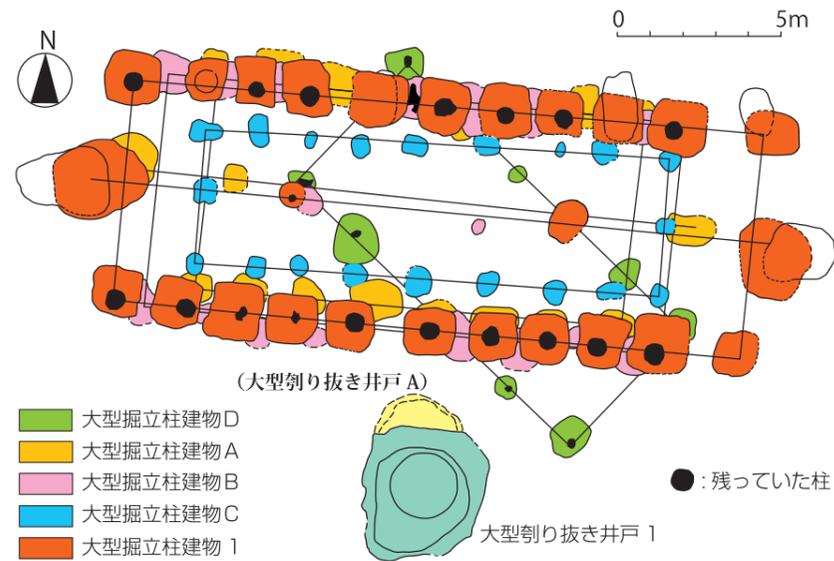


11-2 大型建物の復元模型と模擬戦をする人々
大型建物の前の広場で、模擬戦(儀礼的な戦い)が行われた様子を復元しています。



11-4 復元された楼閣
土器に描かれた絵画を元に復元され、遺跡のランドマークとなっています。

池上曽根遺跡



12-1 大型建物と大型井戸の平面図 池上曽根遺跡
弥生時代中期後葉の建物。複数建替が行われ、最大のは長辺約20m・短辺約7m、長辺の両サイドに棟を支える棟持柱を備えています。大型建物の南側には、大木を割り抜いた井戸枠をもつ大型井戸が設置されていました。



12-4 建物が描かれた土器 池上曽根遺跡 (弥生中期/和泉市教育委員会蔵)
独立棟持柱をもつ建物が描かれています。



12-5 サヌカイトの剥片と磨製石斧 池上曽根遺跡 (弥生中期/和泉市教育委員会蔵)
大型建物の周辺に磨製石斧をサヌカイトの剥片で包むように埋納されていました。



12-2 大型建物と大型井戸 池上曽根遺跡



12-3 大型建物の木柱 池上曽根遺跡
ヒノキやケヤキの建物の柱(柱根)が残存していました。その1本は年輪年代測定法によりBC.52年に伐採されたことが明らかになり、弥生時代の実年代論争に一石を投じました。

鳥をかかげる

鳥をかたどった木製品は池上曽根遺跡の発掘調査で注目され、その後日本各地の遺跡から出土しています。池上曽根遺跡のものは、腹部に穴がけられており、棒を刺して高くかかげられたようです。背に羽を取り付けるための切り込みを持つものもあります。

復元された池上曽根遺跡の大型掘立柱建物の屋根には、鳥形木製品が取り付けられています。



12-6 鳥形木製品 池上曽根遺跡 (弥生中期/大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館蔵/大阪府指定文化財)

11-1: 藤田2019、 11-2~4: 田原本町教育委員会、 12-1: 大阪府立弥生文化博物館2021、 12-2~5: 和泉市教育委員会、 12-6: 大阪府立弥生文化博物館

行ってみよう、史跡と博物館

唐古・鍵遺跡と池上曾根遺跡は、国の史跡に指定され、史跡公園として整備されています。史跡の地下には、貴重な遺構が保存されるとともに、本書で紹介した楼閣や大型建物等が復元され、弥生時代の巨大集落の姿をイメージできるよう工夫されています。また、周辺には遺跡を紹介する博物館やワークショップを実施する施設も整備されています。

本頁及び次頁では、各遺跡の史跡公園、施設等の情報を掲載しています。興味をもたれた方は、ぜひ現地を訪れ、弥生時代の情報に触れてみてください。

唐古・鍵遺跡



上空から見た唐古・鍵遺跡史跡公園



唐古・鍵遺跡史跡公園案内図



唐古・鍵考古学ミュージアム

唐古・鍵遺跡史跡公園

住所：奈良県磯城郡田原本町唐古50-2
 開館時間：開園時間：9:00~17:00（入園は16:30まで）
 休園日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12/28~1/4）
 入園料：無料
 電話：0744-34-5500
 F A X：0744-34-5511

周囲の田園風景を含めた弥生時代の「風景」の再現とかつてこの場で行われていたであろう「生活」を追体験できる場として運営されています。

唐古・鍵考古学ミュージアム

住所：奈良県磯城郡田原本町阪手233-1
 （田原本青垣生涯学習センター2階）
 開館時間：9:00~17:00（入館は16:30まで）
 休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12/28~1/4）
 入館料：一般200円、高大生100円、中学生以下無料
 電話：0744-34-7100
 F A X：0744-34-0522

唐古・鍵遺跡の考古資料を中心に展示し、弥生時代の情報を発信しています。

池上曾根遺跡



上空から見た池上曾根遺跡



大阪府立弥生文化博物館



池上曾根弥生学習館



いずみの国歴史館（まなびのプラザ）

池上曾根遺跡史跡公園

住所：大阪府和泉市池上町四丁目14-13
 開館時間：10:00~17:00
 休園日：月曜日（祝日の場合は翌日）・祝日の翌日
 ・年末年始
 入園料：無料
 電話・FAX：0725-45-5544

弥生時代最大級の大型建物と大型井戸を復元。市民の憩いの場として賑わっています。

大阪府立弥生文化博物館

住所：大阪府和泉市池上町四丁目8-27
 開館時間：9:30~17:00（入館は16:30まで）
 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
 入館料：一般310円、65歳以上・高大生210円、
 中学生以下無料
 特別展・企画展の開催時は入館料が変わります
 電話：0725-46-2162
 F A X：0725-46-2165

広く弥生文化をテーマとする博物館。キャッチフレーズは「卑弥呼と出会う博物館」。

泉大津市立池上曾根弥生学習館

住所：大阪府泉大津市千原町二丁目12-45
 開館時間：10:00~17:00（入館は16:30まで）
 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）・祝日の翌日
 （土日除く）・年末年始
 入館料：無料（ただし体験学習は実費）
 電話：0725-20-1841
 F A X：0725-20-1866

土器づくり、ろう石を用いた勾玉・丸玉づくりなど、いつでも・だれでも気軽に弥生時代のものづくりが体験できます。

和泉市いずみの国歴史館

住所：大阪府和泉市まなび野2-4
 （宮ノ上公園内まなびのプラザ）
 開館時間：10:00~17:00（入館は16:30まで）
 休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日
 （土日の場合は開館）、年末年始、その他展示
 入れ替え期間（不定期）
 入館料：無料（特別展は有料の場合あり）
 電話・FAX：0725-53-0802

池上曾根遺跡をはじめ和泉市内の遺跡の出土品や、地域に伝わる古文書、旧町村役場公文書、民俗資料などを展示しています。